山口大学医学部附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山大病院だより

2015 10月号
vol.225

特集 薬剤師は、こんな仕事をしています

薬剤部のみなさん56名

合言葉は「薬のリスクから患者を守る!!」

患者さんひとりひとりに合った薬物治療を支援します

注射薬の調剤

特集 薬剤部紹介

薬剤師は、こんな仕事をしています

薬剤部HP http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yakuzai/

合言葉は「薬のリスクから患者を守る!!」

皆さんは、薬剤師の仕事について、どのようなイメージを持っていらっしゃるでしょうか?今回、本院の薬剤部がどのような仕事をしているのかについて、紹介させて頂きます。

現在、薬剤部では、薬剤師51名と事務員5名が働いています。主な業務は、①調剤(外来・入院処方の調剤と交付、おくすり相談など)、②注射調剤(注射薬の調剤と情報提供など)、③薬品管理(院内で使用する医薬品購入と品質管理・麻薬管理など)、④製剤(抗がん剤の混合調製、院内製剤の調製など)、⑤薬品情報管理(医薬品情報の収集・提供、副作用情報の収集など)、⑥治験薬管理(治験管理など)、⑦試験研究(院内感染防止対策、薬物体液中濃度測定・解析など)、⑧臨床(医薬品の適正使用支援、患者さんへの薬剤管理指導、チーム医療、病棟スタッフや患者さんからの薬に関する質問・相談の対応など)があります。このように様々な業務を通して、患者の皆さんの治療をサポートしています。

2014年9月からは、全ての病棟に薬剤師が常駐し、入院患者さんの適正な薬物治療に力を注いでいます。入院中には、ベッドサイドで薬剤師が患者さんに安心に薬物治療を受けて頂けるよう、薬についての説明・指導を行い、また、副作用確認のための本院オリジナルのチェックシートを用いて、副作用の早期発見にも取り組んでいます。また、退院されてからも、患者さんが安心して薬物治療を受けられるよう院外の薬局との連携も密にしています。薬のことで気になることがございましたら、近くの薬剤師に何でもご相談ください。

さらに、教育機関としての役割を果たすため、薬学生の臨床実習にも積極的に取り組んでいます。毎年10名以上の本県出身の薬学生に2か月半の臨床実習を行い、未来の薬剤師を育てています。そして、その実習経験者のうちの何人かが、現在、本院の薬剤部で活躍しています。

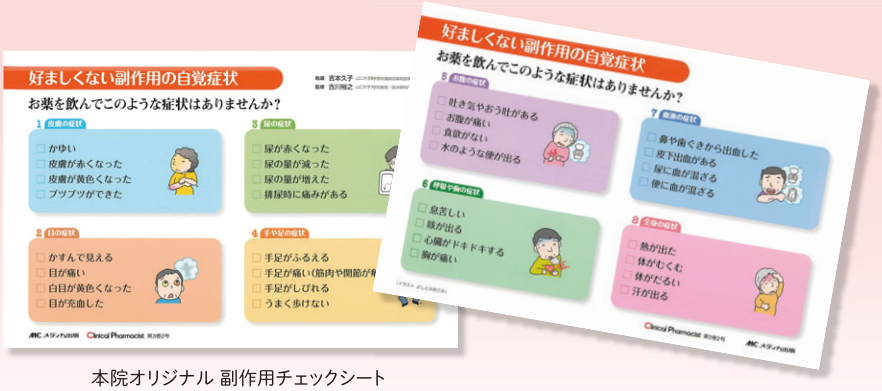
私どもは、「薬のリスクから患者を守る!!」を合言葉に、他の医療専門家と連携し、患者さんひとりひとりに合った薬物治療を支援していきます。

薬剤部のホームページに薬剤部の取り組みや臨床実習の様子等を掲載しています。ご興味がある方は、ぜひご覧になってください。

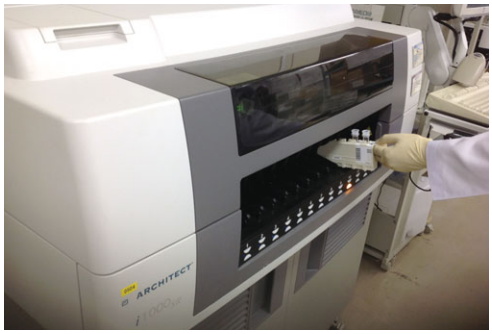
VOICE
前職で業務上課題と思いながら解決できなかったことについてのアイデアを得ることができた。

VOICE
忘れかけていた臨床のセンスを思い起こすことができた。

VOICE
服薬指導及びTPN(全ての栄養を大静脈に挿入したカテーテルから補給する方法)調製の見学をしたい。



本院オリジナル 副作用チェックシート



薬学生の臨床実習　　（上）抗がん剤の混合調製（下）薬物体液中濃度測定

REPORT 全国初!

薬学系大学教員のための『リフレッシュ研修』を実施しました!!

2015年8月20、21日の2日間に、全国初の試みとして、薬学系大学の教員を対象とした『リフレッシュ研修』を実施しました。

教員は臨床現場を離れると、どうしても臨床センスが劣化します。また、病院薬剤師の業務は年々変化し続け、学生は臨床実習で薬剤師の最新業務を学ぶため、その変化の内容を知らないと、ギャップが生じます。そこで、この研修は、最新の薬剤師の業務内容を知ってもらい、学生の教育に役立ててもらうことを目的に企画しました。研修プログラムの作成は、薬剤部の教育研修ワーキンググループで検討しました。私たちは、この研修を機に、大学との相互理解の強化や共同研究の推進にも発展させたいと考えております。

研修は、2日間計10時間で実施し、広島大学、慶應義塾大学、福山大学、就実大学、広島国際大学から7人の薬学系教員が参加されました。

初めに薬剤部内の各部門を回り、具体的な業務内容の説明を行いました。さらに、病棟業務を完全実施するまでの進め方、病棟で薬剤師が活用している様々な業務支援ツールの紹介、チーム医療の見学も行いました。研修の修了者には、病院長名と薬剤部長名で修了証書をお渡ししました。

来年夏には、より内容の充実した研修を実施する計画です。

※研修当日は、業界紙の記者の方が取材してくださり、「薬事日報」（2015年9月7日）に紹介されました。

研修1日目スケジュール／平成27年8月20日（木）

時 間	内 容
13:00～13:30	オリエンテーション
13:30～14:30	病棟業務
14:30～15:30	注射調剤
15:30～16:30	D I
16:30～17:30	薬品管理

研修2日目スケジュール／平成27年8月21日（金）

時 間	内 容
8:20～8:30	朝 礼
8:30～9:30	調 剤
9:30～10:30	製剤室
10:30～11:30	TDM
11:30～12:30	治 験
12:30～13:30	休 憩
13:30～14:30	チーム医療（感染対策・がん緩和）
14:30～15:30	リクエストタイム（質問タイム）

参加者の感想

VOICE 病院薬剤師の仕事が多岐にわたることが分かった。

VOICE 現場で働いている方々から、どのような努力をしているのかが聞けて本当に勉強になった。

VOICE 近年の薬剤部の業務で重点を置いている内容がよく分かった。

hito

就任のごあいさつ

山口大学大学院 医学系研究科
呼吸器・感染症内科学分野 教授
松永和人

山口大学医学部附属病院に新たに呼吸器・感染症内科が開設されました。7月1日付けで、科長を拝命いたしました松永和人（まつながかずと）と申します。「山大病院だより」をご覧になられている皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は奈良県の生まれですが、小学生の時に北九州市小倉に転校しました。小学生時代には両親に山口県内の公園や海水浴場に連れてきてもらいました。その後、高校卒業までの10年間を福岡で過ごしたため、山口県は馴染みのある縁の深い土地であります。平成3年に和歌山県立医科大学を卒業後は、和歌山赤十字病院や国保那賀病院などで一般内科医として勤務し、呼吸器内科の地域医療に従事しました。平成11年からは南フロリダ大学に2年間留学し、呼吸器感染症の免疫に関する研究に取り組みました。帰国後は和歌山県立医科大学に戻り、呼吸器・感染症内科学の診療、教育、研究に携わってまいりました。

肺は生きていく上で欠かせない「呼吸」を行う臓器です。また外界から侵入しようとする大気汚染物質、細菌、ウィルスから生体を守る働きもあります。呼吸器・感染症内科では「呼吸」において重要な働きを行う「肺」や「気管支」の病気を中心に診療を行います。具体的には、アレルギー疾患である「気管支ぜんそく」、タバコにより肺や気管支が傷害される「COPD（肺気腫）」、長年の塵や有害物質の暴露によって生じる「じん肺」、これらの疾患が原因となり息苦しさが持続する「慢性呼吸不全」、「肺炎」や「結核」などの感染性肺疾患、「肺がん」などの腫瘍性疾患、「睡眠時無呼吸症候群」など睡眠に関連する呼吸障害などの広範で多岐にわたる疾患を診療いたします。

2週間以上も咳や痰が長引く、夜中や朝方になると胸苦しくなり喉がぜいぜいする、安静にしていると大丈夫なのに歩くと息切れがする、痰に血液が混じる、レントゲン撮影で肺にカゲが指摘された、などでお困りの方は是非われわれにご相談下さい。

山口大学大学院 医学系研究科
医学教育学分野 教授
白澤文吾

7月1日付けで、医学系研究科医学教育学分野教授を拝命致しました白澤文吾（しらさわぶんご）と申します。医学部附属医学教育センターのセンター長を併任致します。皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成5年に山口大学を卒業後、第一外科に入局しました。心臓血管外科を専攻し、関連病院等の勤務を経て、平成18年より山口大学に帰学しました。平成22年からは、大学病院の医師ゼネラルリスクマネージャーの業務にも従事しました。

私の仕事をざっくり例えますと、「卒業時の学生をイメージしたジグソーパズルを完成させるような仕事」です。今までは、講座毎に各々で担当領域を教えていれば、卒業したらそれなりの医師になっていくだろうと思い込んでいました。しかし、これからは「アウトカム基盤型教育」といって、「山口大学はこのような卒業生を社会に送り出す」と先ず決めます。そして、各講座が連携して必要なピースを埋めていき、6年間かけて目標とする卒業生の姿を作っていきます。今後は従前のテクニカルスキルのほか、ノンテクニカルスキルである、多職種連携教育（医学科と保健学科の合同講義・実習）、プロフェッショナリズム教育、倫理教育、コミュニケーション教育にも特に力を入れたいと考えています。また、期間が拡大していく診療参加型臨床実習の充実も大きな課題です。山口県の医師不足に歯止めをかけるためには、当然ながら山口県で働いてくれる若い医師の確保が最も重要です。そのためにも、卒前及び卒後教育の密な連携を行い、学生・教員の双方にメリットのある実習体制を確立したいと考えています。

さらに、医学教育を実施するに当たり、私自身が大切にしたい個人的な思いがあります。それは、医学を教えるだけでなく、「学生に最も身近な教授」として、全ての学生が人間力を高められるよう、成長を促していきたいということです。今後私は医学教育学の最前線で働くようになりますが、「人生のキャリアの8割は偶然の産物である」というエビデンスもあるようです。今まで培ってきた外科学での経験・実感をベースにした医学教育を通して、大学病院に貢献したいと考えています。

皆様には、何かとご迷惑をお掛けすることが多々あるかとは思いますが、「職種を問わず、オール大学病院で学生を教育していく」ことが必須であると考えていますので、引き続きご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

NEWS

高校生ふれあい看護体験・1日ナース体験を行いました

7月22日(金)から8月26日(水)まで計13回、高校生ふれあい看護体験・1日ナース体験が行われ、90名の高校生が参加しました。

この体験行事は、次世代の看護の担い手となる中高生を対象に、病院見学や看護体験などができる「1日ナース体験」を実施し、看護への理解や関心を高めることにより、進路選択に役立ててもらおうと山口県が主催し、県内23病院が実施しているものです。

まず、高校生達は看護部が用意した白衣を身につけ、オリエンテーションで医療従事者としての看護師の衛生、接遇及び身だしなみ等の心がけのレクチャーを受け、看護師業務のDVDを見た後、実際に病棟で看護の体験をしました。

看護体験では、一人ひとりに指導看護師が付き、病床環境の整備、血圧測定、洗髪、カルテ入力、新生児の入浴、エコー検査等の業務を見学し、一部指導を受けながら実際に業務を行いましました。

看護体験後の懇談会では、高校生一人ひとりから、「コミュニケーションが一番大切だと感じた」、「自分の体が健康であるありがたさや、命の大切さを学んだ」、や「患者さんが安心してケアして欲しいと思ってもらえるような、立派な看護師になりたいと強く思った」等の感想があり、今後の進路を決める上での良い体験となりました。

病院整備計画室だより

8月26日(水)、新病棟建設工事が始まりました。

工事は、患者さん及びスタッフの安全確保のため、工事用地を囲い込む作業からスタートしており、8月31日(月)には、外来ロータリーの切り替えが完了しました。

工事中の交通規制等の情報は、院内掲示の他、再開発整備事業ホームページ「新着情報」にてご案内してまいりますので、是非ご覧ください。

ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

仮囲いの様子(保健学科研究棟前)

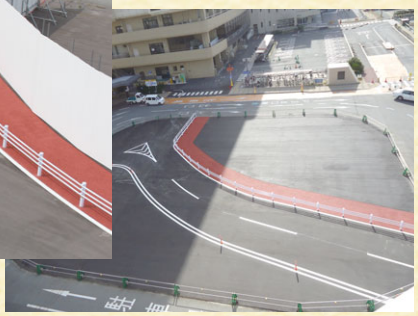
このたびの病院再開発に向けて、山口大学のマスコットキャラクター「ヤマミィ」の工事バージョンが誕生しました!病院ともどもよろしくお願いいたします。

再開発整備事業へのアクセス

山口大学　再開発　検索

再開発整備事業URL
http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp

切り替え後(～H30年後)



外来ロータリー切り替え前

病棟リレー 手術部

各病棟を紹介します！

手術部のチームワークは万全！

手術部看護師は、「私たちはあなたの手術に全力を尽くします」をモットーに手術を必要とするすべての患者さんに対して、どの時間帯においても安全で適切な医療が提供できるようスタッフ一丸となって頑張っています。

平成26年度の手術件数は6，230件で、一ヶ月間に500件以上の手術が行われています。外科系だけでなく、内科系も含め22診療科の手術が行われています。平成24年度にはダヴィンチが設置され、ロボット支援手術が始まりました。平成25年度に増設されたハイブリッド手術室では、平成26年度よりTAVIが行われるようになるなど手術室は日々進化しています。

手術室では1例の手術を、器械出し・外回りそれぞれ1名ずつで担当します。術式や使用する物品も毎年変化しています。手術中の褥瘡予防や深部静脈血栓予防、ラテックスアレルギー対策など、手術以外のリスクにも対応しています。

直接手術を担当している時間以外には、患者訪問を行い、術前は不安の軽減や、体位作成に使用する物品の選択などを行います。また、術後は手術看護を振り返っています。

手術部看護師の業務は手術部の運営にも大きく関わっています。副看護師長とチームリーダを中心に、専門性を高めるため、診療科の医師と連携をとり、手術の打合せだけでなく、手術に使用する器材の購入計画・修理・メンテナンスなどを担っています。

手術室では、看護職員以外に、診療科の医師、麻酔医、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師、外注業者など多くの職種が働いていますが、手術部看護師はそのチームワークの中心となっています。良いコミュニケーションがとれ、阿吽の呼吸で仕事ができるよう納涼会や忘年会で親睦を深めています。

現在の手術室は平成9年8月に竣工されましたが、平成30年には新棟へ移転します。年々増加する手術件数ですが、新棟では16室（18室まで増室可能）となります。山口県の医療を支える手術部でありたいと、何時いかなる緊急手術にも対応できるようにしています。

何時いかなる緊急手術にも
対応できるよう準備しています。

藤田師長より一言

緊張感の強い職場環境ですが、患者さんに寄り添い、スタッフもお互いを思いやるこころを大切にして頑張っています。今後とも手術部をよろしくお願いいたします。

BYOTO RELAY

栄養治療部

季節のレシピ recipe

食欲の秋！

今年も実りの季節がやってきました。
美味しい新米が出回って、まさに食欲の秋。
今回は、普通に炊くだけでも美味しい新米に、
ひと手間加えてチャーハンを作ってみました。
チャーハンは、基本的には油をたくさん使う料理ですが、
ピラフのように炊き込むことによって、油を最小限にカットしつつ
パラパラに仕上げることができます。
炊飯器で簡単にできるので、ぜひお試しください。

Today's menu 炊き込みチャーハン

材料 1人分

- 米……75g
- 炊飯用の水…82cc（米の重量の1.1倍）
- 鶏がらスープの素……2.5g
- 卵……1/2個
- 油（炒り卵用）……1g
- 焼豚……15g
- 葱……10g

栄養成分 エネルギー350kcal　食塩相当量1.6g

作り方

1. 米を材料の分量外の水で洗って水を切っておく（無洗米でも一回洗うとなおよい）
2. 卵は油をひいたフライパンで炒卵にして、焼豚と葱はみじん切りにしておく。
3. 炊飯釜に米、水、鶏がらスープの素、炒卵、焼豚を入れて炊く（炊飯モードは通常モードでよい）
4. 炊き上がったら器にもって、葱を散らしてできあがり。

Today's menu きのこ汁

材料 1人分

- きのこ類（干し椎茸1枚含む）……50g
- カブ……20g
- 人参……10g
- カブの葉（または葱）……3g
- ごま油……1g
- だし汁……130cc
- 醤油……小さじ1

栄養成分 エネルギー32kcal　食塩相当量0.9g

作り方

1. 規定量のだし汁に干し椎茸を入れて戻しておく。きのこ類は石づきをとり食べやすい大きさにしておく。カブ、人参はサイの目に切り、葱は小口切りにする。
2. 鍋にだし、きのこ、カブ、人参をいれ、野菜がやわらかくなるまで煮る。
3. 調味料で味を整え、器に盛り付ける。葱を散らしてできあがり。

炊き込みチャーハンは、
炒める油が大幅にカットできるため
エネルギーが
約80～150kcalカット!!

これなら油を気にせず食べられます。
ただし食べ過ぎには注意！
汁物は具だくさんにすることでボリュームが出るうえに、
いろんな食材のうまみもプラスされるため調味料が少なくてすみます。

◎監修：管理栄養士　有冨早苗　福田有子

NEWS

第6回 山口県ドクターヘリ事例報告会を開催しました

7月25日(土)に医学部第3講義室において「第6回山口県ドクターヘリ事例報告会」を開催し、県内各消防署や救急指定病院等から約120人が参加しました。

当日は病院長代理として鶴田先進救急医療センター長から、「この事例報告会を有意義なものとし、より良い運航を目指すとともに、これからの県内全体の救急医療をさらに向上させたい」と挨拶がありました。引き続き、平成26年度の山口県ドクターヘリの実績報告、事例発表の後、北九州市立八幡病院副病院長 伊藤重彦先生から「メディカルコントロール体制 ～北九州地域の取組について」の演題で講演があり、参加者は先進的な取組を行っている北九州地域の現状に耳を傾け、大変有意義な報告会となりました。

NEWS

難病対策センター開所式が実施されました

田口病院長挨拶

神田難病対策センター長挨拶

9月24日(木)、外来診療棟3階難病対策センター前にて開所式が行われました。

このセンターは山口県からの委託事業として設置され、山口県の難病対策の拠点として、医療従事者等に対する難病に関する相談・情報提供などの支援や、県内の医療機関等との連携強化を行うことで、より適切な治療・相談支援体制を構築することを目的としています。

式では田口敏彦病院長より、「現在、国が難病に関する調査・研究を推し進めようとしている中で、当センターが附属病院に設置されたことは意義の大きいことである」と挨拶があり、続いて、山口県健康福祉部の岡紳爾次長より「難病患者の皆様が安心して療養生活を送れるよう、医療・療養支援体制の充実に努めていきたい」、神田隆難病対策センター長より「しっかりとした難病医療を山口県に築くことができるよう頑張りたい」との挨拶がありました。

NEWS

平成26年度 トランスレーショナルリサーチ成果報告会開催

8月28日(金)、平成26年度トランスレーショナルリサーチ成果報告会を、総合研究棟1階S1講義室で行い、田口病院長、学内教職員、大学院生等約30名が参加しました。

トランスレーショナルリサーチ推進助成金は、新たな診断法や治療法開発にかかわるトランスレーショナルリサーチ(TR)を助成し、世界に誇れる先進医療の開発を促進することを目的として、病院長の発案で平成23年度から始まり、今回が第4回目の成果報告会となります。

当日は、平成26年度に採択された以下の7名の研究代表者がそれぞれの研究成果を発表しました。

- 杉野法広 教授(大学院医学系研究科 産科婦人科学分野)
  代理発表：佐藤　俊 助教(大学院医学系研究科 産科婦人科学分野)
- 上田和弘 講師(医学部附属病院 第一外科)
- 岡村誉之 助教(医学部附属病院 第二内科)
- 戒能聖治 准教授(大学院医学系研究科 消化器病態内科学分野)
- 松山豪泰 教授(大学院医学系研究科 泌尿器科学分野)
- 森重直行 講師(大学院医学系研究科 眼科学分野)
- 恒富亮一 助教(大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学分野)　(発表順)

それぞれの発表の最後に設けられた質疑応答では、意見交換がなされ、今後の山口大学医学部の更なる発展が期待できる成果報告会となりました。

NEWS

財団法人日本医療機能評価機構より感謝状が贈呈されました

このたび、財団法人日本医療機能評価機構より、病院機能評価事業開始当初から認定を継続して4回取得している246施設へ感謝状が贈られました。

病院機能評価とは、第三者機関である同財団が、組織的に医療を提供するための基本的な活動が適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。

本院は、平成10年に国立大学附属病院として初めて認定を受けてから、平成26年4月に4回目の認定を受けました。

今後もより質の高い医療が行えるよう、職員一同取り組んで参ります。

編集後記

先日、薬剤部の研修におじゃまして、普段なかなか見ることの出来ない注射調剤の様子や薬品管理など見学しました。表紙の写真は山大病院で働く薬剤部のみなさんです。改めて大勢の方に支えられていると実感しました。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。
FAX 0836-22-2113　E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
TEL 0836-22-2007　URL http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp